

SGH 海外フィールドワーク 2018 オーストラリアコース

茨城県立土浦第一高等学校

- 1 目的 (1) 現地大学と連携したフィールドワーク、講演、文化交流、現地高校と連携したアカデミックワークショップ、文化交流、現地企業と連携したフィールドワーク等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識を身につける。
(2) 将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。

2 日程 平成 30 年(2018) 8月 14 日(火)～21 日(火)

3 方面 オーストラリアニューサウスウェールズ州シドニー周辺及びタスマニア州ホバート

4 参加者 2年生 7 名 引率2名 添乗員1名

5 選定理由 【オーストラリアを選定する理由】

(1) 交流の優位性

時差がほとんどなくテレビ会議システムでの交流に支障がないこと、歴史的経緯から親日的な国民性であること、在留邦人が多く交流の手助けとなることなどにより、生徒間交流に適している。

(2) 地域的な利点

日本とオーストラリアの自然環境は大きく異なり、人々の生活や文化にも異なる点が多い。そのような違いを生徒が認識することは、多様性を受け入れる際の大きなきっかけになると考える。

【タスマニア大学を受入先とする高大連携の理由】

(1) 生物資源的価値

「タスマニア原生地域」として世界遺産条約の複合遺産に登録、国立自然公園もあり、多くの生物固有種に恵まれる。また日本とほぼ同緯度に位置するため、地形、気候、生物などに類似性があり、日本と自然環境を比較検討するのに利点があるため。

(2) 地政学的意義

日本との時差がなく、事前事後に実施する生徒同士のテレビ会議等によるコミュニケーションがとれる。また外務省海外安全情報による危険情報発令がなく、テロ活動等の危険性が相対的に低い。さらに、ヨーロッパやアジアからの移民を受け入れてきた多民族国家のためグローバルの縮図を体験できる。経済面では、日本と同じ先進国であり成熟市場のため、日本のビジネスモデルを考える際に比較検証に好都合なため。

(3) 筑波大学との連携

タスマニア大学と連携している筑波大学生命環境系の紹介であり、長期にわたる交流継続が可能である。また、タスマニア大学の教授との交流プログラムを平成 28 年 10 月 4 日に本校で実施した実績もあり、先方も本校に関心を寄せているため。

6 行程の詳細, 生徒感想, 写真

日次	月日曜	発着地/滞在地名	発着現地時間	交通機関名	摘 要	食事
1	8月14日 (火)	羽田空港<集合> 羽田空港発	19:30 22:00	航空機 (QF026)	羽田空港国際線ターミナル集合 出国手続後, カンタス航空にて空路, オーストラリアへ (機中泊)	機内食
2	8月15日 (水)	シドニー着 シドニー市内 シドニー発 ホバート着	8:30 18:55 20:55	専用車 航空機 (QF1585) 専用車	到着後, 入国・通関後, シドニー市内見学後 (企業dog Pty Ltdに14:00 アポイント訪問) 空路, ホバートへ 到着後, 以下, 宿泊先へ移動 (トラベロッジ・ホバート泊)	機内食 昼: レストラン 夕: 各自
3	8月16日 (木)	ホバート市近郊	8:30頃 18:00頃	公共交通	午前: タスマニア大学で講演, ワークショップ 午後: 市内フィールドワーク (トラベロッジ・ホバート泊)	朝: ホテル 昼: 各自 夕: レストラン
4	8月17日 (金)	宿泊先発 UTAS着 宿泊先着	8:30頃 9:00頃 17:00頃	公共交通	午前: タスマニア大学にて成果発表 午後: 研究室訪問 (トラベロッジ・ホバート泊)	朝: ホテル 昼: 各自 夕: 各自
5	8月18日 (土)	宿泊先発 ホバート空港着 ホバート空港発 シドニー着 ミーティングポイント着	8:00頃 9:00頃 11:30頃 12:45 14:35 16:30	専用車 航空機 (QF1584) 専用車	午前: ホバート・ワイルドライフ見学 (10:30頃まで) ホバート空港へ移動 空路, シドニーへ 到着後, ホームステイ先まで移動 (ホームステイ泊) ※先生, TCはホテル泊	朝: ホテル 昼: 空港にて各自 夕: ホームステイ
6	8月19日 (日)	ホームステイ			ホストファミリーと過ごす (シドニー市内・近郊) (ホームステイ泊) ※先生, TCはホテル泊	朝: ホームステイ 昼: ホームステイ 夕: ホームステイ
7	8月20日 (月)	ミーティングポイント発 現地交流校着 現地学校発 シドニー空港集合 シドニー発	8:00頃 9:00頃 15:00頃 17:00頃 20:50	専用車 航空機 (QF025)	ミーティングポイント集合 その後, 高校訪問 (学校間交流プログラム) 学校交流後, 空港へ 出国手続後, カンタス航空にて空路, 帰国の途へ (機中泊)	朝: ホームステイ 昼: できれば学校で取りたい 機内食
8	8月21日 (火)	羽田空港着	5:15		到着通関後, 解散。お疲れ様でした。	

*発着日時及び交通機関は変更になることがあります。

【ホテル】ホバート (全員) トラベロッジ・ホバート
シドニー (教員, TC) キャピタルスクエア



羽田空港で出発式



出国前に集合写真

【2日目】8/15 ・企業訪問(doq) ・ホバート 21:00 着

Bondi Beach やミセスマッコリーズチェアーなどの市内観光, Rocks でのランチ後, ダーリングハーバーの栈橋にオフィスがあるコンサルティング会社 doq を訪問(訪問にあたっては, 株式会社 TNC の小祝誉士夫様からご紹介をいただいた)。応対には作野様と阿部様(茨城県出身)にあたっていただいた。初めに, 各グループのビジネスアイデアを日本語でプレゼンし, 作野様からコメントをいただく流れで計5グループ行った。作野様のコメントは, ビジネスの最前線で活躍しておられる方らしい的確なもので, 今後生徒が課題研究を深める上でおおいに参考になるものであった。予定の1時間が1時間半になってしまったが, 生徒のプレゼン後, 作野様と阿部様から doq のビジネスについての説明をしていただいた。2時間余りの企業訪問であったが, 非常に中身の濃い充実した時間となった。その後, オペラハウスを見学し, シドニー空港から国内線でホバートに向かった。

【生徒感想】

- ・市内研修では, オーストラリア固有の文化よりも多国籍の文化がほどよく混じり合う感じが, 多国籍文化を強く感じさせてくれました。
- ・企業訪問では, 実際にビジネスを生み出している人たちからとても参考になるフィードバックをもらうことができ, 有意義な時間になった。ターゲットや現状については, 今日もらったアドバイスをもとに 17 日のプレゼンではもう少し情報を加えていきたい。
- ・doq さんでは自分たちでは全く気がつかなかった点を指摘してもらった。特にこれから考えていかななくてはならないのはマーケットサイズの決定です。これは見落としがちで, けれど大切な1点です。



シドニーのシティをバックに記念撮影



ミセスマッコリーズチェアーにて



doq が立地するダーリングハーバーの棧橋



作野様と阿部様によるビジネスモデルの説明



doq でのプレゼン



最後に記念写真

【3日目】8/16 ・タスマニア大学講演 ・市内フィールドワーク

9 時にホテルを出発し、徒歩でタスマニア大学(UTAS)まで向かった。タスマニア大学(UTAS)では、先ずピーター教授の極地研究に関するレクチャーをいただき、次に、タスマニア大学の研究員(北海道大学助教)福田氏から、ホバートでの生活についてのレクチャーをいただいた。そして 11 時に、タスマニア大学の学生がアシスタントとして来ていただき、自己紹介と研究概要の説明後、市内へ街頭調査に向かった。街頭調査は、サラマンカのレストラン街前広場と市内中心部ショッピングセンター付近の2ヶ所で行った。生徒は準備していたアンケート用スケッチブックやお礼の折り紙などを駆使して臆することなく挑戦し、1グループで約 20~50 人からの回答を得た。「皆優しく答えてくれた。」「英語が通じてうれしかった」などと語り、初めての海外街頭インタビューが成功したことに手応えを感じた。

[生徒感想]

- ・福田さんのプレゼンで、タスマニアでの生活に関するお話を聞き住みやすそうなところだと感じた。
- ・なかなか自分から積極的にインタビューできず、結果的に人数が少なくなってしまった。また、声をかけても気がつかずに通り過ぎてしまった人もいて、もっとはっきりしゃべらなければいけないと感じた。
- ・街頭インタビューは、初めは緊張していたけれど 25 人でできて良かったと思う。大学生アシスタントと移動中、会話は英会話の練習になってよかったです。あたっただけの勇気がつきました。
- ・フィールドワークでは UTAS の学生が明るく優しくいろいろなことを話してくれて、コミュニケーションの楽しさを感じることができた。インタビューも多くの人から快く答えてくださり、段々積極的にアプローチできるようになった。



タスマニア大学前のバス停



タスマニア大学の校舎



ピーター先生からのレクチャー



アシスタントの学生と打ち合わせ



徒歩で街頭調査へ



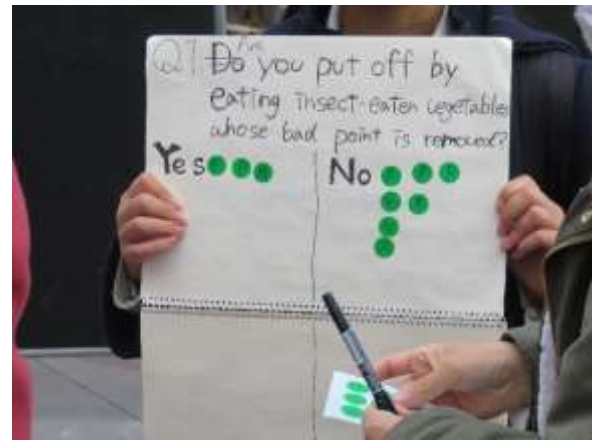
街頭調査前にアシスタト学生と記念撮影



街頭調査



あたってくださいのインタビュー



優しく答えてくれる人もたくさん

【4日目】8/17 ・タスマニア大学での発表 ・研究室訪問

前日同様、9 時にホテルを出発し、午前中は前夜のうちにまとめた調査結果を踏まえたプレゼンを行う。聴衆はピーター先生と2名の研究員、前日にお世話になったアシスタント学生 5 名。質疑応答では、ピーター先生や藤田研究員からかなり鋭い質問やアドバイスをいただき、生徒たちは英語でのやりとりに苦労しながらも何とかこなすことができた。最後に、ピーター先生からお褒めの言葉をいただいた。学内でランチをとった後、自動車開発の Lab を見学させていただいた。

【生徒感想】

- ・言語が違うだけで自分はこんなに緊張してしまうのかという発見があった。
- ・プレゼンが口ごもって「えー」とか言ってリズム良くできなかったので、相手に伝わっているかも心配ですし、できなくてくやしかったです。これからプレゼンでは本気で伝えたいと思うよう頑張ります。
- ・プレゼンのフィードバックがいつも活発で、みんなが必ず自分の意見を発信していて良いと思った。日本(一高)で同じ事をしてこんな感じにはならないと思うので、せめて SGH だけでも自分の意見をみんなが言える雰囲気にして自分も実践していこうと思います。
- ・自分なりに準備をきちんと行ったが、人の前に立って話をするのは難しく、緊張して内容を忘れてしまった。また、プレゼン中に少し止まってしまう時間があったので、もっと準備をして場数を踏んで GBIC に向けて練習したい。
- ・今日指摘されたのは、発表中にフラフラしすぎということだ。自信のなさをそこにだすな、と言われた。自分的にはそんなに動いているつもりはなかったので、他人にプレゼンを見てもらうのも大切なのだとわかった。
- ・研究室訪問では、大学生の説明がほとんど聞き取れなくてくやしかったです。現地の人が普段話す英語のスピードでも聞き取れるようになりたいです。



大きなスクリーンに映されるスライド



福田研究員からのアドバイス



ピーター先生と記念撮影



Lab 見学

【5日目】8/18 ・ボノロングワイルドライフ ・空路シドニーへ・ホストファミリーとミーティング

毎週土曜日に開催されるサラマンカマーケットで短時間のショッピングを楽しんだ後、交通事故で親を失ったワラビーやタスマニアデビルを保護し、野生復帰を促すことを目指す施設のガイドツアーに参加。生徒たちは日本ではあまり見ることのできない動物を目の前にし、施設が目指す活動の趣旨を深く実感した。

その後、ホバート空港からシドニー空港に戻り、空港から1時間余りの距離にあるホームステイ先のミーティングポイントに向かった。生徒たちは、緊張の面持ちで次々にお迎えに来るホストファミリーの車に乗っていった。

[生徒感想]

- ・ボノロングは、空気がとてもきれいで自然豊かだった。一生の思い出になりました。
- ・ボノロングでは24時間交通事故にあう動物を保護しているということで、タスマニアでの交通事故の多さに驚いた。



サラマンカマーケット



タスマニア名物の蜂蜜を購入



ウオンバットについてガイドの説明を聞く



カンガルーと触れ合う



タスマニアンデビル



癒やされました



ホストファミリーとミーティング



ホームステイは2泊しました

【6日目】8/19 ・シドニー近郊でのホームステイ

1日ホストファミリーと過ごす。それぞれのステイ先で、思い思いのオーストラリアライフを楽しんだ。教会に連れていってもらったり、市内でショッピングを楽しんだり。English only の生活だったが、生徒はファミリーと積極的にコミュニケーションをとり、有意義なホームステイとなる。

[生徒感想]

- ・オーストラリアならではの多国籍な感じで、いろいろな料理を食べた。会話はあまり思うようにはいかなかったが、いつもはあきらめてしまうタイミングでも根気強く話すことができた。
- ・ミャンマーの宗教のイベントに連れていってもらった。自分は宗教の集まりは初めてで新鮮で楽しかった。ご飯はオーストラリアにいながらインド料理やミャンマー料理を食べることができ、オーストラリアの多文化社会を身をもって体感できた。



にぎやかなホストファミリーと



貴重な経験になりました

【7日目】8/20 ・Our Lady Queen of Peace Primary School 訪問 ・シドニー空港へ

シドニー市内の小学校を訪問。月曜日のため初めに全校集会があり、その中で紹介を受け生徒代表挨拶を行った。午前中は、生徒たちは3グループに分かれて5,6年生の授業に参加。常に生徒の発言を促す授業形態や授業中でも飲食を許されていることなど、日本とオーストラリアの学校の違いに驚いた様子。午後は、2時間授業をいただき、土浦一高の紹介や日本に関するクイズ、福笑いゲームを行い、小学校の子供たちと楽しい一日を過ごした。

空港に向かうまで、シドニー大学を車窓から見学し、シドニー市内で最後のショッピングを楽しんだ。

[生徒感想]

- ・訪問した小学校の授業は教科書、ノート、黒板が使われずに行われていた。午後みんなで一緒に行った授業を小学生たちが喜んでくれてとてもうれしかったです。
- ・日本語の授業があるからなのか、みんな「こんにちは」「おはよう」と日本語で積極的に話しかけてきて嬉しかった。福笑いも思ったより盛り上がってくれて良かった。日本クイズも成功できてよかった。
- ・教室の雰囲気から日本とはまるで違い、机いすは最初から丸くグループ状態になっていて、授業はPCやIPADを皆使って受けていた。先生からの問いかけにもものすごい人数が手を挙げるのにも驚いた。



Our Lady Queen of Peace Primary School の全校集会



生徒代表挨拶



授業に参加。リンゴ食べている子も…



日本の授業とはだいぶ違うような



昼休みにゲームの準備



ゲームは子供たちも大喜びでした



【8日目】8/21 ・帰国 5:15 ・解散式 6:00

羽田空港での解散式で修了証を手渡す。

7 アンケート結果

(1)自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度

- ・自分で考え,行動し,高いコミュニケーション能力を身につける 80%
- ・精神力をきたえる,英語でのプレゼンに慣れる,文化の違いを知る 70%
- ・プレゼンをとどこおりなく行う 70%
- ・オズハーベストのあるオーストラリアで食品ロスを知る 80%
- ・自分たちのビジネスプランをもっと確かなものにし積極的に英語にかかわること 30%
- ・途中経過としてのプレゼンを成功させて今後のビジネスに有用な情報を集める 60%

(2)印象に残っていること, 学んだこと, 自分が変容したと思うこと

- 今回の研修で一番初めに思い出すのはタスマニアの空です。空気が澄んでいて、空が青々と見えました。
- 海外でははっきりと言うことが普通だと知りました。どちらが良いか?と聞かれ、どちらでも良いと言っても、いつも Yes or No?と聞き返されました。もっと自分の意見をしっかり持ちたいと思いました。
- 最も印象に残っているのはフィールドワーク。自信をつけることができた。
- 英語でのコミュニケーションの楽しさ、自分とは違う文化を知ることの楽しさを知ることができ、興味の幅が広がった気がする。
- 最も印象に残っているのは、タスマニア大学でのプレゼンとシドニー近郊でのホームステイ。ホームステイでは、自分の話す言葉が通じたのが嬉しく、少し英語に自信ついた。
- 今までには自分に対する自信や英語力に対する自信が全然持てなかったが、今回の研修を通して自信が少しついた。
- 自分の意思を言葉で示して発信することの大切さを知りました。
- 今回の研修はとても刺激的で全てが印象に残っている。特に企業訪問では、日本から出て世界で活躍している方たちの貴重なアドバイスをいただけたのは本当に良かったと思う。大学での発表もそうだが、人前で発表し、もらう意見というのは自分たちではなかなか気づかないようなものばかりなので、やはり多くの人にアドバイスをいただけるのは貴重な体験だった。
- 「積極的に英語に関わること」を目標にしたが、shyな部分が出てしまい、大学生とも小学生とも余りしゃべれずに終わってしまったため、英語に関しては後悔が残る研修となってしまった。
- 最も印象に残っているのはオーストラリアの人々の国民性である。人々がとても優しくフレンドリーな方が多かった。移民の国ならではの独特な国民性だと思った。今回の研修の1週間は、日本での普段の1週間よりはるかに何回も「ありがとう」を言ったと感じた。また、今回の研修を通して自分が変容したと思うことは、文化を見る目が変わったことが一つである。多文化の国で様々な文化に触れて1つ1つの文化の良いところも相似点もあって、だからこそ理解する大切さを学んだ。もう一つはビジネス的視点である。doqに行ってプレゼンをしてフィードバックをもらって、ビジネスは長期的に展開していくもので、様々な要因や要素から成り立つものだと感じた。ターゲットの絞り方なども学んだので、これから先ビジネスをつくるにおいて貴重な経験ができ成長できた。